

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791700079		
法人名	株式会社フレンド		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 フレンド筆ヶ崎(1階)		
所在地	大阪府大阪市天王寺区筆ヶ崎町3番20号		
自己評価作成日	平成30年4月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=2791700079-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=2791700079-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年6月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、なるべく外出したり外の空気に触れていたく機会を作る為、定期的な行事計画を実施しております。また、昨年は、隣接する「上本町げんき学園」様と共に、園児の発表会を通じての交流会も実施いたしました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、近隣の商店や公園、喫茶店等への外出の際に近隣の方と挨拶したり、事業所と隣接する保育園の園児の来訪による遊戯の披露、ボランティアの訪問による音楽の演奏を楽しむ等、地域の方との交流に努めています。気候よい時期の日々の散歩をはじめ、季節に応じて初詣や桜の花見、動物園や水族館へ出掛ける等、出来るだけ多く外出する機会を持てるよう取り組み、家族の協力を得て外食や結婚式、法事等にも出掛けられるように支援しています。職員は年間計画に基づいた研修を受講する機会があり必要な知識を身に付けると共に、会議や日々支援する中で様々な意見を出し合い協力しながら支援に取り組み、個々の利用者がその人らしく暮らせること等を謳った理念にそった事業所作りに努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、職員ミーティングを開催し、実践はしているが、まだまだ満足いくサービス提供を実施出来ていない。	法人の理念を事業所の理念として玄関やリビング等に掲示し意識付けを行い、入職時に理念に込められた思いを説明しています。職員同士や家族とも話し合いながら利用者に応じてその人らしく暮らせるように個別のケアに取り組むことで理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて、自治会や地域のイベント等の情報交換を行っている。	地域の商店や喫茶店に出掛けたり、散歩の際には近隣の方へ挨拶をしています。事業所に隣接する保育所の園児の来訪があり遊戯の披露をしてもらったり、朗読や楽器の演奏等のボランティアの訪問もあり利用者を楽しんでもらうと共に地域との交流を少しずつ深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設での取り組みや、イベントへの招待などを運営推進会議を通じて情報発信している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報交換を行い、認知症当事者である入居者様にも積極的に参加いただき意見を述べて頂いている。	会議は2か月に1回近隣の法人内のグループホームと合同で利用者や地域包括支援センター職員等の参加の下開催し利用者の状況や行事、研修、事故や苦情に関する報告等を行い意見交換をしています。地域のふれあい喫茶や行事等情報をお願い訪問や参加を検討する等、会議をサービスの向上や支援に活かすように努めています。	会議に家族の参加が得られていない状況です。家族に会議の意義を伝え、今後も参加を継続的に呼びかけることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公費の方が多くおられる為、担当ケースワーカーや高齢者窓口へ相談に伺うことが多く、ご本人様の支援に繋がるアドバイスを積極的に頂いている。	運営上の手続きや報告等で行政の窓口へ訪問したり、不明点の確認を行政の担当へ問い合わせをしたり、アドバイスをもらっています。行政からの研修の案内をホームページ等で確認し可能なものには出来るだけ参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践するため、職員へのコンプライアンス研修を実施している。	身体拘束に関する研修を年1回実施し、全職員が参加できるようにしています。また虐待に関する研修の中でも身体拘束についての研修を行い、研修後の振り返りを書面で提出してもらっています。身体拘束や言葉かけによる制止は研修や会議で繰り返し具体例を伝え、玄関やフロアによっては入口は安全上施錠していますが、外出希望の利用者には職員と一緒に外出し気分転換を図る等閉塞感の無い支援に取り組んでいます。	

認知症対応型共同生活介護 フレンド筆ヶ崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に基づいたケアを実践するため、職員へのコンプライアンス研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人設置申立を行っている入居者がおられる為、情報共有を行いながら知識の習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	都度、ご家族様及び入居者様の相談援助を実施している。相談事項は、サービス担当者会議等にて問題解消に向けて協議している。	利用者の意見や要望は日々支援する中で聞き、家族の意見や要望は面会時や電話で聞いています。また年1回法人が実施する満足度調査アンケートの結果は事業所にフィードバックされています。家族から運動をする機会を増やして欲しいとの意見をもらい散歩や体操をする機会を増やす等、意見をサービスに反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット毎に毎月1回ユニット会議を開催し、サービスの質の向上や職員間の情報共有等、意見陳述が行える機会を設けている。	毎月実施するユニット毎の会議にはほぼ全員の職員が参加し、意見を出し合っています。また日々の関わりの中で利用者の支援について申し送りノートを活用しながら職員から意見を聞き、カンファレンスで話し合いケアの統一を図っています。体制が新しくなり管理者による個別面談も実施する予定となっており、今後職員から意見や提案を聞く機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や、資格取得の支援などの機会を創出し、積極的に職員への啓蒙を行っている。		

認知症対応型共同生活介護 フレンド筆ヶ崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や、資格取得の支援などの機会を創出し、他事業者との交流の機会を持てる機会を作っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望に沿った情報提供に心掛けています。ご本人の状況の変化に合わせて、ご家族にもご協力をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会を設けている	友人や知人、親戚等の来訪の際には居室へ案内し椅子やテーブルを出してゆっくり過ごしてもらえよう配慮しています。職員と馴染みの美容室に行ったり、昔から知っている動物園等に出掛けています。家族と一緒に墓参りや法事、結婚式等に出掛ける際には薬等の事前準備を支援し、年賀状を作成し友人等へ出す等、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしています。	

認知症対応型共同生活介護 フレンド筆ヶ崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在はその様な対象者はいないが、求められれば対応可能です。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実施している。	入居時に事業所や病院等で面談し利用者や家族から生活歴や身体状況、思い、意向を聞きアセスメントシートに記入し職員間で共有しています。入居後の日々の関わり合いの中で利用者から聞いた思いや希望は介護記録に記入し、困難な場合でも会議等で職員間で話し合い、家族にも相談し本人本位に検討するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施している。	アセスメントを基に作成した介護計画は、入居後初回は1か月で見直し、その後は短期目標は6か月、長期目標は1年の期間を決めて見直し、利用者の状態に変化があれば随時見直しを実施しています。見直しの際はモニタリングと再アセスメントを実施し、サービス担当者会議を開き事前に聞いた家族や必要があれば医師等の意見を計画に反映して現状に即した計画となるよう取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施している。		

認知症対応型共同生活介護 フレンド筆ヶ崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実施している。	入居時にこれまでのかかりつけ医の継続か協力医への変更かを選択してもらい、かかりつけ医へは職員の対応で受診し結果を家族に報告しています。24時間連絡可能な協力医による往診が月に1回あり、また訪問看護師による健康チェックを週に1回受けています。訪問歯科による口腔ケアや治療を受けたり、利用者の状態や希望に応じて専門医の往診やマッサージを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実施している。	入居時に看取りの指針を基に家族へ説明し希望を聞いています。利用者が食事の摂取が難しくなった時等、状態が進んだ際に医師から家族に説明してもらい意向を確認して看取り支援の体制を決めています。医師と連携し家族に面会を増やしてもらおう等、協力を得ながら看取り支援に取り組んでいます。法人の研修計画に基づき看取り支援に関する研修を受け知識を身に付けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実施している。		

認知症対応型共同生活介護 フレンド筆ヶ崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実施している。	年2回それぞれ昼夜の火災を想定し、夜間想定訓練の際には消防署立会いの下通報や避難誘導、初期消火等の訓練を実施しています。寝たきりの方の避難も想定し、職員が役を演じて避難誘導の訓練を実施する等、万が一の災害発生に備えています。	地域との協力関係の構築に向け、訓練開催時には地域の方の協力が得られるよう近隣の方へ訓練の案内や参加を呼びかけてはいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実施している。	職員は法令遵守に関する研修の中でプライバシーに関して学び、また年1回接遇マナーの研修を実施することでも知識を身に付けています。どのような言葉かけが問題となるか事例を研修で伝え、不適切な言葉かけが見られた場合は会議で指導しています。排泄時や入浴時は周囲に注意して支援すると共に希望に応じて同性介助を実施する等、羞恥心に配慮した支援にも努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実施している。	季節等も考慮して作成した献立にそってクックチルで届け、利用者は食器拭きや配膳等の出来ることに携わってもらい職員も一緒に食べています。月1回は利用者の希望を聞きちらし寿司や鍋料理等を作ったり、たこ焼き等のおやつも手作りしています。家族と外出した際には外食を楽しむ利用者もいる等、食事が楽しいものとなるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施している。		

認知症対応型共同生活介護 フレンド筆ヶ崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実施している。	座位の取れる方はトイレでの排泄を基本とし、排泄記録を取りパターンを把握し時間や様子も見ながら個々に応じて声かけや案内を行っています。退院後等その人に合わせた排泄の支援を継続することでトイレへで排泄が出来るようになったり、紙パンツで過ごせるようになる等改善した利用者もいます。個々の利用者に応じた排泄支援の方法や排泄用品の種類を職員間で話し合い検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	実施している。	入浴は週2回を基本とし時間帯は午前中に支援しています。湯は一人ずつ交換し、車椅子の方も2人介助で支援を行い、入浴拒否が見られた場合は日を変えたり様子を見ながら無理なく入浴出来るように工夫しています。好みのシャンプーやリンスの持ち込みや入浴剤を使用する等、その人のペースでゆっくり入浴してもらえるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	実施している。		



認知症対応型共同生活介護 フレンド筆ヶ崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	実施している。	気候が良い時期には出来るだけ近隣の公園等へ散歩に出掛けています。地域の商店や喫茶店に行ったり、季節に応じて初詣や桜の花見、紅葉狩り等の外出行事の他、動物園や水族館等にも出掛けています。また家族と一緒に掛ける利用者もおり、外出する機会を多く持てるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の同伴をしているが、金銭管理は施設が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している。	リビングには利用者と一緒に作った貼り絵や書道の作品、行事の写真等を掲示して温かい雰囲気作りに努めています。テーブルや椅子は利用者同士の関係性を考慮して配置し居心地よく過ごせるように考慮しています。また温湿度計を設置して利用者の体感を考慮しながら室温を調整し、加湿器の使用や利用者も出来る事に携わりながら毎日掃除を行い快適な共用空間作りに配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している。	入居時に家族へ馴染みの物を持ち込んでもらうよう伝えてあります。これまでに使っていたテレビや机、椅子、棚、ラジオ、大切にしている家族の写真、仏壇等を持ち込み家族が設置し、入居後の利用者の生活を見て家族と相談して配置を変更することもあります。これまでの生活習慣を継続し布団を敷いて休む方もおり、また毎日清掃を行い清潔保持に努め快適に過ごせる居室となるよう工夫してします。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	実施している。		